

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成29年8月21日)

項目	ページ
1 鳥取県農業青年サミット2017 inせいぶ(第56回鳥取県農村青年夏のつどい)開催について 【経営支援課】	1
2 農林水産部試験研究課題にかかる平成29年度外部評価委員会の結果について 【とっとり農業戦略課】	2
3 主要農作物の生産販売状況について 【生産振興課】	6
4 第11回全国和牛能力共進会(宮城大会)鳥取県代表牛決定について 【畜産課】	7
5 今年度の林業創生オーストリア林業技術導入の取組について 【林政企画課】	9
6 公益財団法人鳥取県造林公社の経営改善計画の進捗について 【林政企画課】	10
7 『きなんせ「食のみやこ鳥取県」SNS投稿キャンペーン』の開始について 【食のみやこ推進課】	12
8 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】	13

農 林 水 産 部



鳥取県農業青年サミット2017 in せいぶ(第56回鳥取県農村青年夏のつどい)開催について

平成29年8月21日
経営支援課

次代の農業を担う県内の農業青年、新規就農者が一堂に会し、青年同士のつながりを深めるとともに、お互いのスキルアップを図り、農業に対する知識と技術を深めることによって、経営の改善に資すること、農業者としての自信と誇りを培うことを目的として、「鳥取県農業青年サミット2017 in せいぶ」を開催します。

1 開催テーマ

GAPって何？ 農業の喜びって何？

2 開催場所

日吉津村ヴィレステひえづ 第1・第2会議室（日吉津村日吉津965-1）ほか

3 主催

鳥取県農村青年会議連絡協議会、米子地区農村青年会議連絡協議会、米子市農村青年会議、鳥取県

4 後援

公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構

5 内容及び日程

(1) 1日目：9月1日（金）

時間	内容	場所
13:00～13:30	受付	ヴィレステひえづ
13:30～13:45	開会式	
13:45～14:45	講演「GAP等生産工程管理の制度紹介」 講師：鳥取県農林水産部農業振興戦略監生産振興課 竹内亮一係長	
14:45～15:15	講演「就農から経営発展、GAPの取組について」 講師：寺岡昌一氏（第1期アグリスタート研修修了生）	
15:15～15:45	質問コーナー	
15:45～17:00	意見交換（数人のグループごと） 「農業の楽しみ、喜びを感じることは何ですか？」	
17:00～17:15	閉会式	日吉津村海浜運動公園キャンプ場
17:45～19:45	夕べのつどい（懇親会） 宿泊	

(2) 2日目：9月2日（土）

時間	内容	場所
9:00～10:30	海岸清掃（中海アダプトプログラム*へ参加）	中海干拓護岸

* 中海アダプトプログラム … 「中海」を「泳げる中海」にしようと、住民・企業・自治体等が協働で進める「まち美化運動」

(参考)

- ・鳥取県農村青年夏のつどいは、鳥取県農村青年会議連絡協議会が主催となって、毎年度開催しているものであり、今回で56回目を迎える。
- ・昨年度は、平成28年8月23～24日、「鳥取県農業青年サミット2016 in ちゅうぶ」として、中部地区において開催し、関係機関・団体の関係者を含めて、77名が参加した。

農林水産部試験研究課題にかかる平成29年度外部評価委員会の結果について

平成29年8月21日

とっとり農業戦略課

外部の有識者の方々による幅広い視点をもとに試験研究課題の選定、試験研究の効率的な実施、及び広範囲に普及可能な技術の確立を図ること等を目的として、試験研究課題の外部評価を行いました。

1 外部評価委員会

- (1) 実施日 7月25日(火)、8月4日(金)
- (2) 評価者 学識経験者(鳥取大学、公立鳥取環境大学)、流通・経済界(市場関係者)、生産者(農業・林業・水産業関係者)、消費者 計11名

2 評価結果

(1) 評価対象

- ア) 来年度から取り組もうとする研究課題(事前評価対象 8課題)
- イ) 4年以上の試験研究課題のうち研究期間が中間に達した研究課題(中間評価対象 8課題)

(2) 評価結果の概要

区分	事前評価			中間評価			合計
	◎	○	×	◎	○	×	
農業試験場	4	3	1	1	1		5
園芸試験場	2	2		4	4		6
中小家畜試験場	1	1					1
林業試験場				2	1	1	2
水産試験場	1	1					1
栽培漁業センター				1	1		1
課題数合計	8	7	1	8	7	1	16

【凡例】

	事前評価	中間評価
◎: 12点以上	研究を実施する	研究を継続する
○: 9点以上12点未満	研究内容・方法を見直して実施する	研究内容・方法を見直して継続する
×: 9点未満	実施を見合わせる	研究を中止する

ア) 評価の高かった研究課題(※各試験研究課題の概要と評価結果は別紙のとおり)

上段: 課題名(試験場名: 試験研究期間) / 下段: 委員意見

事前	県産魚出荷技術改良試験 (水産試験場: H30~H32) ⇒ズワイガニの活魚保管技術及びイカ類の墨止め技術の開発は付加価値を高める研究であり、また、生産者、消費者ともにメリットが考えられ、積極的に取り組む研究だと思ふ。
	イチゴ新品種のブランド化と産地強化に向けた革新技術の開発 (園芸試験場: H30~H34) ⇒イチゴのEOD光照射、EOD加温技術は冬期の安定収入に繋がるとも興味深い技術。ぜひ技術を確立して新規就農者等の安定生産につなげてほしい。 ※EODとはEnd Of Day、日没後の略。日没後2~3時間のみ光照射、加温を行うこと
中間	白ネギの産地力強化に向けた栽培技術の確立 (園芸試験場: H27~H31) ⇒研究開始当初よりネギ黒腐菌核病の被害が拡大しており、試験の緊急性は増していると思ふ。試験結果はおおむね成果が出ており、今後の研究に期待する。

イ) 研究内容・方法を見直して実施する研究課題

事前	集落営農の経営力向上と中山間農業の継続のための営農メニューの構築(農業試験場: H30~H34) ⇒難しい課題だと思ふが、経営技術の向上に向けて、データベース化をはかることが重要。研究成果についてどこで誰を対象に具体的に進めるか考えること。
中間	ハイブリッド無花粉スギの創出 (林業試験場: H24~H33) ⇒無花粉スギの重要性、必要性は十分に理解できるが、花粉症対策のみならず本来の木材としての品質向上等の観点も十分に考えながら研究を進めていただきたい。

3 今後の取組

- 今回の結果はHP等でも公開し、広く一般県民の皆様に試験研究課題への理解を図る。
- 委員からの意見は試験研究課題に反映させるなど、効果的な研究になるよう努める。

【別紙】

農林水産部試験研究機関の試験研究に係る評価結果（平成29年7月25日、8月4日実施）

とっとり農業戦略課

農業試験場		実施年度	目的	評価結果	
試験研究課題	主な意見			評点	判定
事前1	集落営農の経営力向上と中山間農業の継続のための営農メニューの構築	H30～H34	<ul style="list-style-type: none"> ○集落営農の経営力向上のための営農メニューを構築する。 ○中山間農業の継続のための営農メニューを構築する。 ○現地の経営体における営農モデル活用の実証を行う。 	評点	9.9
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい課題だと思うが、経営技術の向上に向けて、データベース化をはかることが重要だと考える。研究成果について、どこで誰を対象に具体的に進めるか考えること。 ・成果の数値データを経営ソフトで運用・シミュレーション化する手法は新しいアプローチとして興味深い。これらの結果をもとに、個別の事例をうまくアレンジできれば、経営力向上に向けた助言ができる可能性は高い。 	判定	○
事前2	現在(いま)と未来を担う良食味品種のブランド化を目指す研究	H30～H32	<ul style="list-style-type: none"> ○「きぬむすめ」食味の高位平準化に向けた技術開発を行う。 ○次世代品種「鳥系93号」の現地適応性、市場評価等の把握を行う。 	評点	13.0
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県のブランド力向上は営農家の経営に直結するため、現在の技術、品種の確立は急務である。 ・近年の温暖化対策として新品種「鳥系93号」のブランド確立鳥取特産米としての全国展開に期待する。 	判定	◎
事前3	勤から親へ！ICTを活用した農業生産技術の確立試験	H30～H32	<ul style="list-style-type: none"> ○農業気象メッシュデータを活用した水稻・野菜栽培における適期作業予測等の営農管理の「見える化」の検討を行う。 ○ドローンを利用した水稻生育診断、水位センサーによる水管理の省力化等のリモートセンシング技術の検討を行う。 	評点	12.5
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT導入により、若い人あるいは未経験者の農業へのアプローチの一助になるのではないかと。 ・今まで、経験と勤に頼ってきた事項をデータベース化することによりデータと技術の共有化が期待でき、なおかつ、このデータを使った新しい農業技術への発展も考えられる。農業の未来につながる新しい技術だと思う。 	判定	◎
事前4	「ゆうきの玉手箱(参の重)」技術確立☆ステップアップ編	H30～H34	<ul style="list-style-type: none"> ○有機・特別栽培でより安定生産につながる、取り組みやすい技術メニューの確立・拡充を図る。新規課題より、畑作物(野菜含む)栽培にかかる提案型メニュー開発をより強化する。 	評点	12.2
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・伸び悩む有機農家の後押しやブランド力向上に有効。 ・有機認定農家の経営安定化に対する目に見える評価指標を考えていただくとありがたい。 	判定	◎
中間前1	有機栽培「トレジャー技術」を協働で発掘・解析・普及拡大する事業	H26～(終期なし)	<ul style="list-style-type: none"> ○有機栽培実践農家の優良技術を掘り起こし、解析し、技術の普遍化を図る。 ○体系化技術を現地実証し、速やかな技術の普及を図る。 ○有機農産物の生産面積、生産量拡大を図り、県「推進計画」の進捗に寄与する。 	評点	12.2
		主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい有機栽培技術を発掘し、実証試験を行うことにより、科学的に解明、普及活動にて活用、成果も出ており、研究の成果は上がっている。 ・研究成果をデータベース化して、今後いつでも解析できる体制作りが重要だと思う。 	判定	◎

中小家畜試験場		実施年度	目的	評価結果	
事前1	畜産排水の窒素低減処理技術の開発	H30～H32	酪農及び養豚経営の一定規模の農場は水質汚濁防止法の規制対象となっており、県内においても平成14年頃から低コストな汚水処理施設の整備が行われてきた。しかし今日、規模拡大に伴う排水量の増加や硝酸性窒素等の排水基準の規制強化への新たな対応が迫られている。 そこで、既存の活性汚泥法施設にゼオライトを用いた窒素除去機能を付与することで、基準強化に対応した安価で維持の簡易な汚水処理システム技術を開発し、周辺環境と調和した畜産経営の発展に寄与する。	評点	12.8
		主な意見	・予備試験である程度の成果が得られており、新技術達成の期待値は高い。 ・ますます厳しくなる環境基準に対応する技術の開発は急務。農家の方への負担(コストを低く)を少なくし、なおかつ環境汚染をさせない仕組みの研究に期待する。	判定	◎

林業試験場		実施年度	目的	評価結果	
中間1	ハイブリッド無花粉スギの創出	H24～H33	耐虫性、耐雪性及び材質強度に優れる品種などに無花粉形質を取り込んだ付加価値の高い無花粉スギ造林品種を創出する。	評点	11.9
		主な意見	・現時点で研究目標である無花粉スギが誕生する目処がたち、研究の成果が期待できるので積極的に継続すべきである。 ・無花粉スギの重要性、必要性は十分に理解できるが、本来の木材としての品質向上等の観点も十分に考えながら研究を進めていただきたい。	判定	○
中間2	初期成長の優れたコンテナ苗生産技術及び植栽実証試験	H27～H31	優良な造林用苗木生産及び低コスト再造林を推進するため、初期成長が優れた「コンテナ苗」の生産技術を確立するとともに、現地植栽における活着率・初期成長の向上による「伐採～地拵え～植栽」の「一貫作業システム」づくりに係る実証試験を行う。	評点	12.3
		主な意見	・低コスト再造林のために「コンテナ苗」は、非常に効果的だと思う。 ・新技術である「直挿し法」は費用対効果の観点から、実験室内である程度の見通しをつけてからの実証試験を行うのもありかと思えます。	判定	◎

水産試験場		実施年度	目的	評価結果	
事前1	県産魚出荷技術改良試験	H30～H32	本県漁業の主要魚種であるズワイガニの活魚保管技術及びイカ類の墨止め技術の開発を行い、品質及び商品力向上による産地競争力の強化を図る。	評点	13.1
		主な意見	・ズワイガニの活ガニ技術は経済的効果は高いと考えられる。 ・鳥取の水産ブランド品である「カニ」「イカ」をターゲットに付加価値を高める研究であり、また、生産者、消費者ともにメリットが考えられ、積極的に取り組む研究と思う。	判定	◎

栽培漁業センター		実施年度	目的	評価結果	
中間1	環境に適した漁法開発試験	H27～H32	近年の夏・秋期の水温上昇や浅海域での漁獲の低迷等、非常に厳しい沿岸漁業の漁業経営改善に資するため、現在の資源量の多いサワラや高級魚であるカレイ類を対象として海洋環境に適した漁法を開発し、漁業者に普及・活用していただき、漁業者の収益を向上させること。	評点	13.0
		主な意見	・漁業者が少なくなっている時代を考えれば、低コストで効果の出る漁法を開発する事は必要だと思う。 ・沿岸漁業の経営存続には、漁法、魚種の多角化が求められており、ニーズの高い課題である。高齢化や後継者不足により、沿岸漁業の存続は切迫しており、目に見える成果を中途段階であっても早く示す普及活動と並行して勤めて頂きたい。	判定	◎

主要農産物の生産販売状況について

平成29年8月21日
生産振興課

8月17日現在での主要農産物の生産販売状況について報告します（全農とっとり調べ）。

1 すいか

- (1) 栽培面積：288ha（前年比101%）→大栄175ha、倉吉98ha、東伯8ha他
- (2) 生育状況：好天に恵まれ、ハウス、トンネル共に順調に生育し、高品質なすいかに仕上がった。
- (3) 出荷時期：各産地の初出荷は前年並となり、7月中旬にはほぼ終了した。
- (4) 販売状況：出荷期間中に、消費地の気温が高めだったこと、競合産地の出荷量が少なめだったこと等の理由で、終盤まで単価が崩れず、終始高単価での販売となった。

区分	5月31日から7月31日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	14,178	199	2,824
28年度	14,192	197	2,798
前年比	100%	101%	101%

2 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ78ha（前年比98%）、夏ねぎ76ha（前年比101%）
秋冬ねぎは集計中（前年面積235ha）
- (2) 生育状況：春ねぎは豪雪により、出荷量が減少した。夏ねぎは5月の乾燥により、生育が遅れ、作業遅れ等が発生し、やや出荷量が伸び悩んでいる。秋冬ねぎは順調に生育している。
- (3) 出荷時期：夏ねぎの初出荷は5月25日で前年よりやや早く、秋冬ねぎは前年並みの10月1日からの出荷を予定している。
- (4) 販売状況：春先から全国的に出荷量が少ない状況が続き、相場は順調に推移していたが、7月以降相場は下げ基調となっており、単価は前年を下回っている。

区分	3月1日～7月31日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	2,664	374	997
28年度	2,829	410	1,159
前年比	94%	91%	86%

3 初夏どりブロッコリー

- (1) 栽培面積：162ha（前年比99%）
- (2) 生育状況：定植、生育とも順調に進んだが、5月が干ばつ傾向であったことから生育が鈍化し、シーズンを通して大きなピークのない出荷となった。
- (3) 出荷時期：初出荷は4月26日と前年並みであり、7月31日ではほぼ終了。
- (4) 販売状況：全国的に干ばつの影響により出荷量が少なく、シーズンを通して高水準な単価推移となった。出荷量は前年を上回ったことから、前年を上回る販売金額となった。

区分	4月27日～7月31日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	1,360	341	465
28年度	1,259	364	459
前年比	108%	94%	101%

4 ハウス二十世紀梨

- (1) 栽培面積：19.3ha（前年21.2ha、前年対91%）
- (2) 生育状況：4月の開花時期は気象条件に恵まれ、着果量が確保できたものの、4～6月が少雨傾向であったことから、例年に比べてやや小玉な果実となっている。
- (3) 初出荷日：8月2日（前年8月2日）
- (4) 販売状況：例年同様、単価の高い盆前出荷の割合が9割程度の高水準となる見込みである。果実全般の市場への入荷が少なく、前年を上回る高単価で、順調な販売となっている。

区分	8月2日～8月16日までの販売実績（累計）		
	数量（t）	単価（円/kg）	販売金額（百万円）
29年度	456.5	604	276
28年度	552.5	582	321
前年比	83%	104%	86%

（全農とっとり販売速報）

【参考】

「二十世紀梨」

- ・8月10日の肥大予測検討会では、果実は平年並の大きさとなった。収穫前に好天が続けば、高糖度の果実になることが期待される。
- ・8月22日に査定会を開催し、初販売日（前年は8月23日）を公表する予定。

「なつひめ、新甘泉」

- ・全県的な糖度基準（なつひめ：11.5度、新甘泉：13度）に沿って、JA毎に糖度センサー付き選果場で広域選果し、品質の統一を図っている。
- ・なつひめは8月10日に査定会を開催し、初販売日を8月18日に決定した。
- ・新甘泉は8月17日に査定会を開催し、初販売日（前年は8月22日）を決定する予定。

第11回全国和牛能力共進会(宮城大会)鳥取県代表牛決定について

平成29年8月21日
畜産課

第11回全国和牛能力共進会(宮城大会)肉牛の部鳥取県代表牛の認定授与式が8月1日(火)に倉吉シティホテルで開催され、肉牛の部8頭の代表牛が決定しました。

6月28日(水)に決まった種牛の部18頭、高校生の部1頭と併せた合計27頭が出揃い、鳥取県代表牛は9月7日(木)から11日(月)まで宮城県仙台市で開催される最終審査会での上位入賞を目指して出品されます。

1 第11回全国和牛能力共進会鳥取県代表牛

(1) 種牛区(18頭) 復興特別区(1頭)

出品区	出品牛名号	生年月日	父	母	母の父	出品者住所	出品者
1区	若雄	百合森3	H27.11.19	高森	ゆりしらきよ1	百合茂	東伯郡琴浦町 ちくさんけんじょう 畜産試験場
2区	若雌の1	さつき2	H28.5.5	百合白清2	いくこ2	勝忠平	日野郡日南町 にしむらもと 西村利史
3区	若雌の2	ゆり2にしたに	H28.1.16	百合白清2	かつただてる	勝忠平	倉吉市 おもりきと 大森智司
4区	系統雌牛群	しばひめゆり	H27.11.19	飛良柴	しばひめ3013	21世紀	西伯郡大山町 こがにし 小谷茂
		しばひめ388	H27.8.10	白鷗85の3	しばひめ38	第3寿高	西伯郡伯耆町 わたなべきだ 渡辺貞男
		はちこう	H26.9.24	原柴	しばひめ3131	安平幸	倉吉市関金町 のぞみ 農業大学校
		しばひめめぐみ	H22.11.8	鉄平	しばひめあき	第3寿高	西伯郡伯耆町 みやざき 宮崎浩樹
5区	繁殖雌牛群	りんかゆり2	H23.5.26	百合茂	りんか	安糸福	西伯郡伯耆町 きしまやすひろ 木嶋泰洋
		ふくゆり	H22.8.13	百合茂	ふくざくら1	福桜 (宮崎)	西伯郡伯耆町 きしままりこ 木嶋真理子
		しばひめ1	H22.5.10	百合茂	しばひめ382	裕豊	西伯郡伯耆町 わたなべきだ 渡辺貞男
		ゆりさかえ	H21.11.5	百合茂	かご2	安平照	日野郡日府町 こしむらよし 越中嘉道
6区	高等登録群	あやひめ	H20.5.2	福王	あやこ2	勝忠平	西伯郡伯耆町 きしまやすひろ 木嶋泰洋
		あやひめ2	H25.4.24	百合茂	あやひめ	福王	西伯郡伯耆町 きしまやすひろ 木嶋泰洋
		あやひめ22	H28.2.14	白鷗85の3	あやひめ2	百合茂	西伯郡伯耆町 きしまやすひろ 木嶋泰洋
7区	総合評価群 (種牛群)	はくかね	H28.2.26	白鷗85の3	かねしげ	忠茂	西伯郡伯耆町 きしまやすひろ 木嶋泰洋
		しらゆき	H28.2.5	白鷗85の3	ゆきこ	百合茂	西伯郡伯耆町 たなかひろゆき 田中裕之
		しばひめ1131	H27.12.31	白鷗85の3	しばひめ113	隆之国	西伯郡伯耆町 みやざき 宮崎浩樹
		あやはくほう	H27.12.11	白鷗85の3	あやゆり	百合茂	西伯郡伯耆町 たなかひろゆき 田中裕之
復興特別区 (高校生の部)		つむぎ	H28.7.5	百合白清2	かつただてる1	勝忠平	倉吉市 くらよしのうぎょうこう 倉吉農業高校

(2) 肉牛区 (8頭)

出品区	出品件名号	生年月日	父	母	母の父	出品者住所	出品者	
7区	総合評価群 (肉牛群)	銀白	H27.9.8	白鵬85の3	ぎんてる	安福久	八頭郡階頭町	きしもとまきひろ 岸本真広
		白天	H27.9.18	白鵬85の3	てんしのめぐみ	安福久	倉吉市	ふじいひでき 藤井英樹
		佐々木7230	H27.9.16	白鵬85の3	まめゆり	百合茂	西伯郡大山町	にしだよき 西田佳樹
8区	若雄後代検 定牛群	咲織56	H27.9.20	平白鵬	きんてる	安福久	東伯郡北栄町	なんばまさひろ 南場政彦
		福晴鵬	H27.9.21	平白鵬	あやめ	百合茂	東伯郡北栄町	株式会社 やまたちくさん 山下畜産
		平勝忠3	H27.9.9	平白鵬	かつただひら2	勝忠平	西伯郡大山町	にしだよき 西田佳樹
9区	去勢肥育牛	白福鳥	H27.9.11	百合白清2	あいりす	安福久	鳥取市河原町	株式会社 なごちちくさん 谷口畜産
		百合白清久勝	H27.9.9	百合白清2	ひさえ	安福久	東伯郡琴浦町	有限会社 ちくさん とうはく畜産

2 宮城会場行事日程

月日	種牛	関連行事	肉牛
9月4日 (月)	鳥取県種牛出品者出発 鳥取県代表牛出発輸送		
9月5日 (火)	搬入		鳥取県代表牛出発輸送
9月6日 (水)	10:00~16:30 出品牛測定		搬入
9月7日 (木)	10:20~10:35 宮様御台覧 10:35~12:00 開会式	13:00~ ~17:00 「高校の部」審査 和牛審査競技会	8:00~ と畜 冷蔵
9月8日 (金)	9:30~ ~17:00 各区審査	12:00~12:30 繁殖農家特別表彰・ 優良和牛改良組合表彰式	冷蔵
9月9日 (土)	9:30~15:50 各区審査 16:00~17:00 第4区審査・等級決定	12:00~12:30 登録事業功労者表彰・ 全共功労者表彰	5:00~15:00 枝肉格付、審査 16:00~17:30 出品者・連絡員枝肉確認
9月10日 (日)	9:00~17:00 第1~7区審査・等級決定		6:00~7:00 等級決定 8:00~10:00 買参人下見 11:00~13:00 枝肉セリ
9月11日 (月)	8:45~9:00 肉牛の部・展示説明 9:00~10:00 上位入賞牛・特別賞パレード展示 11:00~12:00 閉会式 13:00~	出品牛搬出 → 15時過ぎに鳥取出発輸送	
9月12日 (火)	~9:00	出品牛鳥取到着予定	

今年度の林業創生オーストリア林業技術導入の取組について

平成29年8月21日
林政企画課

本県では、平成26年度から、本県と同様に急峻な地形条件下でも安全で生産性の高い林業を実践する林業先進国オーストリアに学ぶ取組を行うことによって、林業の成長産業化を通じた林業地における地方創生の実現を目指しています。

今年度は、オーストリアからの技術導入等を目的として次の取組を行います。

1 オーストリアへの林業技術研修生の派遣

本県林業の目指すべき将来像とも言えるオーストリアに県内の若手林業者を派遣し、先進的な林業技術を習得することにより将来を担う人材を育成する。

(1) 日程

＜オーストリア派遣＞（10月3日（火）～10月16日（月））

10月5日（木）～6日（金） ケルンテン州の林業・木材産業の視察※¹

10月9日（月）～13日（金） オシアッハ森林研修所※² 林業研修を受講

※¹ ケルンテン州の林業・木材産業の視察

9つある州の中でも林業が盛んなケルンテン州とシュタイアーマルク州のうち、ケルンテン州の素材生産現場、林道工事現場、大規模・小規模の製材所等の視察を行う。（シュタイアーマルク州は、H27鳥取県視察調査団が訪問）

※² オシアッハ森林研修所

オーストリア農林環境水資源管理省森林局に所属し、森林官（フォレスター）、森林マイスター、森林作業員等になるために必要な研修を行っている機関。平成25年から日本人向け林業研修を行っており、鳥取県は平成26年から若手林業者を派遣している。

＜派遣事前研修＞

日程：9月22日（金）（予定）

場所：中部総合事務所

内容：過年度派遣者との情報・意見交換を行う。

(2) 参加者 5名

森林組合職員1名、森林組合作業員1名、民間事業体2名、県職員1名の計5名を派遣する。

2 オーストリアからの講師招聘（鳥取県滞在：9月28日（木）～10月7日（土））

オーストリアのピヒル森林研修所※³から講師を招き、タワーヤーダの現場計画の室内講義と現地架設実習、及び、チェーンソー安全作業研修会を開催し、急峻な地形条件下でも安全で生産性の高いオーストリア林業を県内へ広く普及する。

※³ ピヒル森林研修所

森林所有者が加入するシュタイアーマルク州農林会議所に所属し、林家や林業事業体作業員を対象に、安全で生産性の高い林業技術を指導することを目的として設置された研修所。演習林350haを持ち、実地訓練が充実している。

(1) 招聘者

ピヒル森林研修所 講師 エルウィン・プスターホーファー氏、マルティン・ホルン氏

(2) 指導内容

○タワーヤーダの現場計画の室内講義（一般公開）

9月29日（金）・・・東部（場所未定）

10月 3日（火）・・・中部（場所未定）

○タワーヤーダ架設実習（一部公開予定）

9月30日（土）～10月2日（月）・・・八頭中央森林組合の現場（未定）

10月 4日（水）～10月5日（木）・・・鳥取県中部森林組合の現場（未定）

○チェーンソー安全作業研修会（一般公開）

10月 6日（金）・・・とっとり林業技術訓練センター“Gut Holz（グートホルツ）”

公益財団法人鳥取県造林公社の経営改善計画の進捗について

平成29年8月21日
林政企画課

平成25年2月に策定された公益財団法人鳥取県造林公社の「経営改革プラン（H25～96年）」を基にした同公社の「第1期経営改善計画（H25～34年）」の進捗状況を報告します。

1 経営改善計画の進捗状況

(1) 収入間伐の状況

- 平成28年度の収入間伐の実績は、面積が213ha、材積が19.9千m³であり、計画を若干上回ったものの、達成率は昨年度以下となっている。

※減少の主な理由：豪雪により間伐作業が遅れ、年度内に終える予定の一部が翌年度に持ち越されたことによるもの。

【収入間伐の計画及び実績】

項目	H25	H26	H27	H28	小計	H29～34	合計
面積 (ha)	改善計画	109	120	160	210	599	4,282
	実績	127	161	250	213	751	
	達成率 (%)	117	134	156	101	125	
材積 (千m ³)	改善計画	6	9	13	17	45	350
	実績	6.4	13.6	23.9	19.9	63.8	
	達成率 (%)	107	151	184	117	142	

(2) 経営状況

- 平成28年度は利用間伐が計画よりも進んだこともあり、事業収入及び補助金等収入は計画以上（計画の1.39倍）となり、直接事業費及び管理費も計画を上回った（計画の1.35倍）。
- また、豪雪による間伐作業の遅れにより事業の一部が繰越しとなり、それに伴う収益も繰り越され、直接事業費及び管理費に対する事業収入及び補助金等収入の比率は100%を下回った。

【鳥取県造林公社の経営状況】

(単位:百万円)

区分		H25	H26	H27	H28	計	
収入	事業収入（間伐材等立木売却収入、立木補償等）及び補助金等収入（国補事業、単県事業、基金事業）	計画	260.2	250.2	295.6	360.7	1,166.7
		実績	285.6	534.6	624.9	502.6	1,947.7
		実績/計画	109.8%	213.7%	211.4%	139.3%	166.9%
	その他の収入（借入金、利子助成等）	計画	452.5	407.2	379.8	335.8	1,575.3
		実績	451.0	449.9	391.4	335.9	1,628.2
		実績/計画	99.7%	110.5%	103.1%	100.0%	103.4%
収入計		計画	712.7	657.4	675.4	696.5	2,742.0
		実績	736.6	984.5	1,016.3	838.5	3,575.9
		実績/計画	103.4%	149.8%	150.5%	120.4%	130.4%
支出	直接事業費（造林施設費、保育費等）及び管理費（人件費、事務費）	計画	362.2	321.1	353.0	392.9	1,429.2
		実績	331.2	549.5	573.3	531.5	1,985.5
		実績/計画	91.4%	171.1%	162.4%	135.3%	138.9%
	その他の支出（日本政策金融公庫への償還金・利息等）	計画	350.5	336.2	323.2	303.6	1,313.5
		実績	406.0	421.5	415.6	315.8	1,558.9
		実績/計画	115.8%	125.4%	128.6%	104.0%	118.7%
支出計		計画	712.7	657.3	676.2	696.5	2,742.7
		実績	737.2	971.0	988.9	847.3	3,544.4
		実績/計画	103.4%	147.7%	146.2%	121.7%	129.2%

区分		H25	H26	H27	H28	計
事業収入及び補助金等収入	計画	71.8%	77.9%	83.7%	91.8%	81.6%
	実績	86.2%	97.3%	109.0%	94.6%	98.1%
直接事業費及び管理費						

2 今後の県の取組

- (1) 今年度は、概ね5年毎の経営見直しの時期であり、今後、H25～28年度までの実績等を踏まえ、県と造林公社で構成する「鳥取県造林公社経営改革推進プロジェクトチーム (H25 設置)」により、進捗状況の検証や課題への対応策を検討・実施していく。

<経営改善に係る課題等>

プラン策定時に比べてスギ・ヒノキの販売単価が下落し、一方で労務単価が上昇するなど、条件が厳しくなっている状況で経営改善を進めていくためには、生産量の増加や、路網の整備、低コスト作業システムの導入などの木材販売収入の拡大に向けた方法を検討、推進していくことが必要。

○スギ・ヒノキの平均販売単価の下落

・プラン上のスギ・ヒノキの平均販売単価 (H24 の市場価格を基に想定) : 12,022円/m³

→ H25～H28 のスギ・ヒノキの平均販売単価 : 8,285円/m³

〔プランでは、ヒノキは全ての材積を製材用として市場出荷することを想定 (プラン策定当時は、合板にヒノキは不使用であったことによるもの。) していたが、現状では直径が細いヒノキがあるなど製材用に向かないものが多いため、合板やバイオマス利用へ仕向けざるを得なくなったことから、スギも含めて販売単価がプランに比べて低調になっている。〕

○労務単価の上昇

・特殊作業員 : 13,800円/日 (H24) → 17,000円/日 (H28)

・普通作業員 : 10,800円/日 (H24) → 13,800円/日 (H28)

・運転手 (特殊) : 12,900円/日 (H24) → 15,800円/日 (H28)

- (2) 県単独での要望活動や全国の林業公社を有する府県で組織する森林県連合での要望活動などを通じ、経営改革プラン実現のために必要な制度改正等を、国に対し要望していく。

<国への要望内容>

- ・造林公社に対して県が行う利子補給及び無利子貸付に係る利子負担分についての特別交付税措置の継続及び拡充
- ・国の融資制度である日本政策金融公庫資金について、任意の繰上償還の受け入れ等利息負担軽減

『きなんせ「食のみやこ鳥取県」SNS投稿キャンペーン』の開始について

平成29年8月21日

食のみやこ推進課

鳥取県の食や観光に関する魅力を広く発信し、情報拡散を図ることで誘客を促進するため、SNS(※1)において「#食のみやこ鳥取県」などのハッシュタグ(※2)を付け、鳥取県の食や観光に関する画像・動画を投稿していただいた方の中から、宿泊旅行券などの豪華景品をプレゼントするキャンペーンを下記のとおり実施します。

※1 SNS：人と人とのつながりを促進・支援する、交流型の Web サイト及びネットサービス。(例：Twitter、Instagram)

※2 ハッシュタグ：SNSにおいて、#記号と文字で構成される文字列のこと。発言内に「#〇〇」と入れて投稿すると、その記号付きの発言が検索画面などで一覧できるようになり、同じ経験、同じ興味を持つ人の様々な意見が閲覧しやすくなる。

記

1 事業概要

- ・ SNS (Twitter、Instagram) において、鳥取県の食や観光に関する写真又は動画に、「#食のみやこ鳥取県」「#lovetottorijapan」のハッシュタグを付けて投稿された方の中から、審査又は抽選の上、プレゼントを進呈。
- ・ ハッシュタグを活用することで、「食のみやこ鳥取県」などのキーワードが、鳥取県の食や観光地のイメージとともに、SNSを閲覧した多くの人々に対して発信・情報拡散される。
- ・ 日本語のみならず、英語、中国語(繁体字)、韓国語のページも開設することで、香港や韓国をはじめ海外からの観光客にもSNSへの投稿を促し、閲覧したユーザーの鳥取県への誘客を促進。

2 キャンペーンの概要

コース	食のみやこ鳥取県コース	観光コース
ハッシュタグ	#食のみやこ鳥取県	#lovetottorijapan
投稿対象	鳥取県の食材(農林水産物)や料理に関する写真や動画 (県外で撮影したものであっても、県産農林水産物を活用した食の写真・動画であれば可)	鳥取県内の観光地や、鳥取県内で撮影した風景の写真や動画
プレゼント	・ 鳥取県内への宿泊旅行券(ペア2組4名) ・ 鳥取県の特産品詰め合わせセット(30名) ・ 鳥取県の特産品(30名)	・ 鳥取県の特産品(100名)

3 キャンペーンのスケジュール

	応募期間	当選者発表
上半期	2017年8月1日(火)～2017年10月31日(火)	2017年11月上旬
下半期	2017年11月1日(水)～2018年2月15日(木)	2018年2月下旬

※投稿された写真や動画は、キャンペーンサイト(URL：<https://kinanse-syokutottori.com/>)で閲覧可能。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成29年8月21日
農地・水保課

【変更分】

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	摘要
農地・水保全課 (東部農林事務所)	大口堰地区水利施設保全 合理化事業(土砂吐下部 工)工事	鳥取市 円通寺	株式会社 大谷組 代表取締役 大谷 廣秋	(当初契約額) 149,040,000円 (第1回変更後契約額) 144,632,520円 (変更額) 〔 Δ4,407,480円〕 (第2回変更後契約額) 144,295,560円 (変更額) 〔 Δ336,960円〕 (第3回変更後契約額) 131,204,880円 (変更額) 〔 Δ13,090,680円〕	平成28年8月18日 ~ (平成29年5月30日) 平成30年3月23日	(当初契約年月日) 平成28年8月18日 (第1回変更契約年月日) 平成29年1月27日 (第2回変更契約年月日) 平成29年3月24日 (第3回変更契約年月日) 平成29年7月28日	農業用水運付帯施設(土砂吐ゲート)下部工設置工事 土砂吐下部工 1箇所 杭基礎工 場所打杭 一本 (12) 仮設工 仮締切工 1式 護床ブロック工 353個 ○変更内容 ・現場条件に合うよう土砂吐全体の全面改修から樋門 部の部分改修(自動化)に変更した結果、杭基礎工を施 工しない設計内容となったことによる減額。 ・堰全体の早期安定を図るため、護床ブロックを追加し たことによる増額。	
農地・水保全課 (中部総合事務所農林局)	天神野地区地域ため池 (池ノ谷ため池)改修工事	倉吉市 隼河内	福井土建株式会社 代表取締役 福井 重秋	(当初契約額) 103,248,000円 (第1回変更後契約額) 101,132,280円 (変更額) 〔 Δ2,115,720円〕	平成28年9月23日 ~ 平成29年5月8日	(当初契約年月日) 平成28年9月23日 (第1回変更契約年月日) 平成29年3月2日 (第2回変更契約年月日) 平成29年4月27日 (変更後工期) 平成29年7月21日 (変更後工期) 平成29年8月25日 (第4回変更後契約額) 96,220,440円 (変更額) 〔 Δ4,911,840円〕	ため池整備 堰体工 堤長 79.0m、堤高 16.0m、貯水量 65.99万m ³ 地盤改良工 V=4,829m ³ 法面保護工 A=1,380m ² 押さえ盛土 V=529m ³ 付帯工 舗装工 1式、水路工等 一式 (1) 仮設工 工事用道路 1式、水替工 一式 (1) ○変更内容 ため池改修に伴せ堰体上を並走する用水路(別水系)を 補修する計画であったが、本体工事が遅れ、用水路の通水 時期となったため補修不能となり、取りやめたことによる減 額。	

